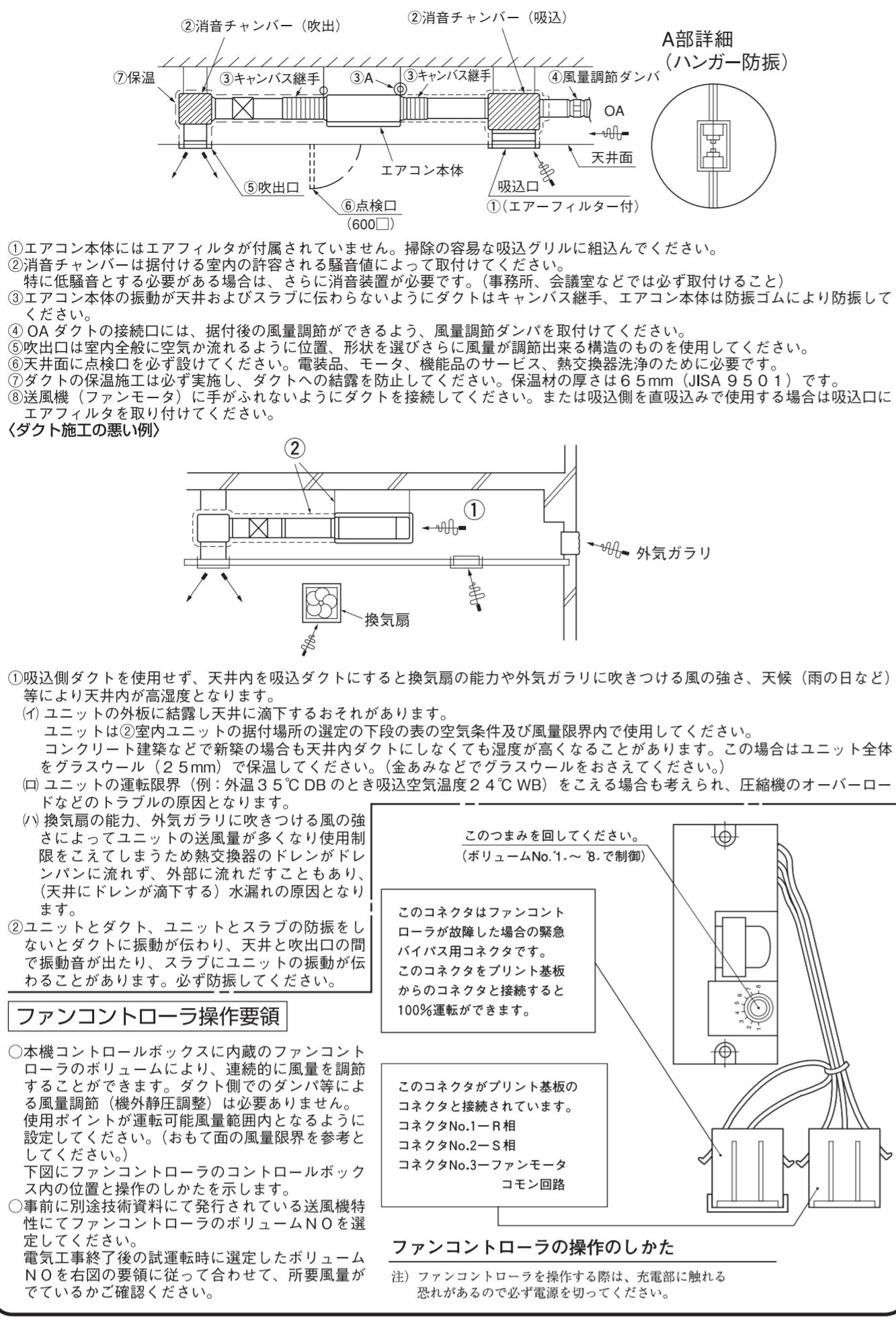


⑤ダクト工事

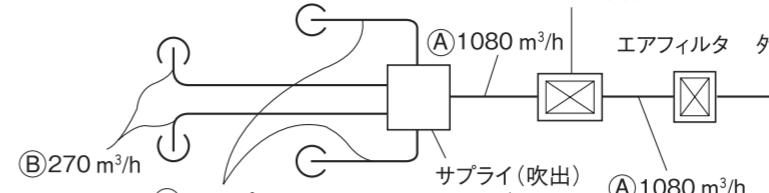


⑤ダクト工事のつづき

簡単なダクト寸法の決め方
ダクトの単位長さ当たり摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一边が250mmのものを使用する場合の方法を示します。

1083形、60Hz定格風量の場合を例とします。

エアコン本体



項目	寸法
風量	(mm×mm)
100	250×60
200	250×90
300	250×120
400	250×140
435	250×150
500	250×170
600(10)	250×190
800	250×230
1,000	250×270
1,080(18)	250×290
1,200(20)	250×310
1,400	250×350
1,600	250×390
1,800(30)	250×430
2,000	250×470

項目	風量	ダクト(mm×mm)
Ⓐ部	1080m³/h (18m³/min)	250×250
Ⓑ部	270m³/h (4.5m³/min)	250×100

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

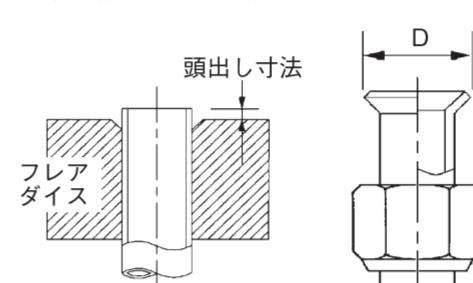
直管部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1ケ当り直管に直して3~4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバー	1個で50Paで計算する
外気ガラリ及びエアフィルタ	1個で40Paで計算する

簡単ダクト寸法選定図	1Pa/m
ダクトの形	角ダクト
項目	寸法
風量	(mm×mm)
100	250×60
200	250×90
300	250×120
400	250×140
435	250×150
500	250×170
600(10)	250×190
800	250×230
1,000	250×270
1,080(18)	250×290
1,200(20)	250×310
1,400	250×350
1,600	250×390
1,800(30)	250×430
2,000	250×470

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又はJIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又はJIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R410A用のフレア加工をしてください。



配管径d mm	配管の最小肉厚mm	フレア加工頭出し寸法mm	フレア外径D mm	フレアナット締付けトルクN·m
6.35	0.8	R410A用	8.9~9.1	14~18
9.52	0.8	0~0.5	12.8~13.2	34~42
12.7	0.8	0.7~1.3	16.2~16.6	49~61
15.88	1		19.3~19.7	68~82
19.05	1.2		23.6~24.0	100~120

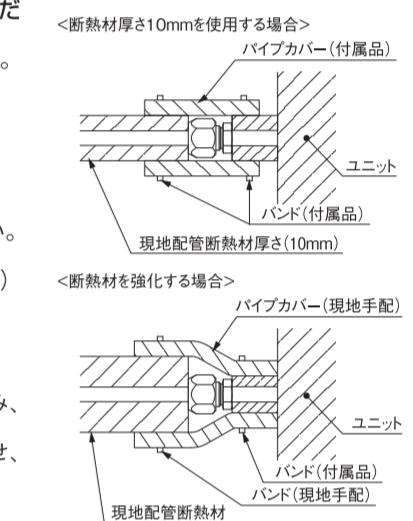
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管(C1220T, JIS H 3300)をご使用ください。また管の外表面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コントミ）の付着がないことを確認してください。
- 冷媒配管の内部にコントミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- R410A以外（R22など）の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。
- 冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

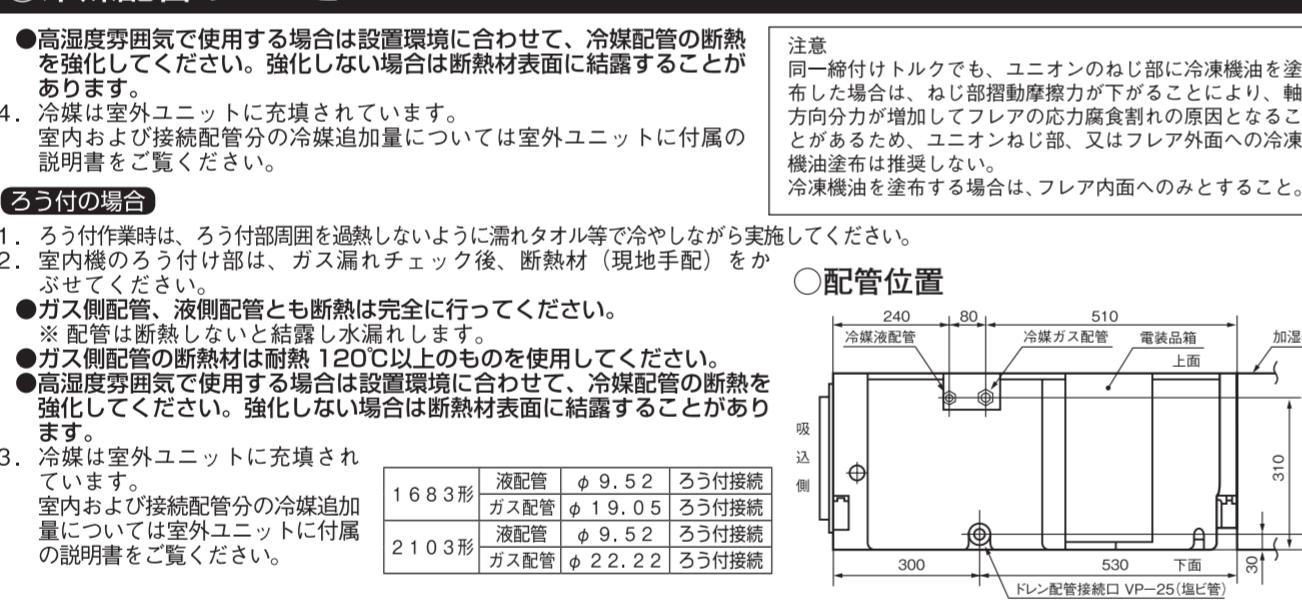
作業手順

フレア接続の場合

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取り外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D以下にねじたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力を締めください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上の中厚断熱材を使用してください。



⑥冷媒配管のつづき



ろう付けの場合

- ろう付け部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
- 室内機のろう付け部は、ガス漏れチェック後、断熱材（現地手配）をかぶせてください。

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

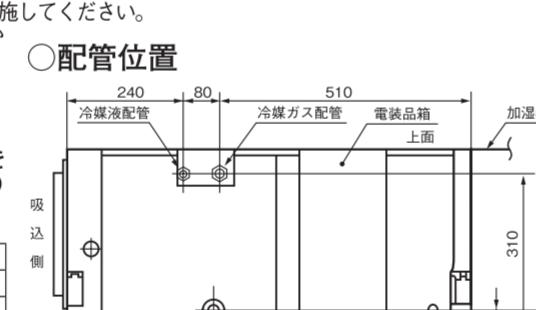
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。

●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

- 冷媒は室外ユニットに充填されています。

室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



⑦ドレン配管のつづき

トラップの施工

- （トラップの施工）（本体ドレン配管、加湿排水配管）
ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを（配管工事のとき）1箇所設けてください。

トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。

トラップはユニットの近くに設けてください。



⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。

不確実な場合、屋内に漏水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。

室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れないないように確実に施工してください。

●水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。

●施工後、ドレンが排水されていることを確認してください。

●ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。

試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

作業手順

- ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。

- ドレン配管をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のホースクランプで確実に締付けてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行なう限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし、途中山越えを作らないようにしてください。
- 複数台のドレン配管の場合、下図のように本体ドレン出口より100mm以上下に集合配管を作るように行ってください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保溫してください。
- ドレン配管の出口は臭氣の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。</li

電気配線工事説明書 外気処理ユニット(吹出温度制御) PJD012D084

202006



電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。

●安全のため必ずお守りください。

●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●「△警告」「△注意」の意味

△警告 守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。

△注意 守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

●ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。○絶対に行わない ①必ず指示に従い行う

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従つて施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（手元開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱、火災などの原因になります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なるサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になります。ファンが突然回り、ケガの原因になります。

●本機に補助電気ヒータの取付けは不可です。



①電源配線接続

電源仕様

●室内ユニットを個別に電源に接続する場合

形式	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	配線サイズ				
				電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
1083	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² × 2	87m 48m	0.75 ~ 1.25mm ² × 2	0.3mm ² × 2心	2.0mm ²
1683,2103								

注 1. 配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注 2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

●複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内機合計電流(mA)	配線太さ(mm ²)	配線こう長(m)	配線用遮断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

漏電遮断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電遮断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電遮断器を選定してください。

<計算式> 必要感度電流 = (各室内機の機種係数 × 台数) の合計値 + (配線係数 × 配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTc	3.5
FDTW,FDTs,FDR,FDU,FDE,FDK,FDU-F	2.5
その他	1

電源配線径	係数
2.0mm ²	50
3.5mm ²	60
5.5mm ²	60
8.0mm ²	60

<判定方法>

(i) 必要感度電流≤30

定格感度電流30mA(0.1s以下)品をご使用ください。

(ii) 30<必要感度電流≤100

原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電遮断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA(0.1s以下)品の使用が可能です。

(iii) 100<必要感度電流

漏電遮断器の系統分割(追加)が必要です。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)に付属の説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定 (3) リモコンアドレス変更の3つ設定方法ができます。

上記3項目については、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



①電源・室内外配線の接続

●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

①配線は銅線以外のものを使用しないでください。

②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。

③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載してあります。

注: 電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。

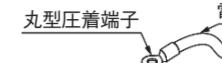
④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時にON、同時にOFFになるようにしてください。

●アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長く、アース線に力がかかるないようにしてください。

●電源は工事が完了するまで入れないでください。

●D種接地工事を必ず行ってください。

●端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。



●専用の分歧回路を用いて他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカー落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。

●機種毎に設定された過電流及び漏洩遮断器を設置してください。

●室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地絶縁不良や途中接続部の接触不良を引き起こす可能性があります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)

●天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。

●室内ユニットに接続する電源線は3.5mm²まで使用可能です。5.5mm²以上の配線を使用する場合は、専用のブルボックスを使用し、室内ユニットへ分歧してください。

●信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。

① A-B信号線に誤って、200V電源を接続しても最初の1回は保護します。

② 電源投入15分経過後リモコンからユニットNo.(アドレス)が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。

③ 烧損基板のジャンパー線J10SL1を切り、コネクタCnK1(黄) CnK2(白)に差し替える。

④ A-B端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。

●室内ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接続しないように施工してください。

●リモコン用端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。

●ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続

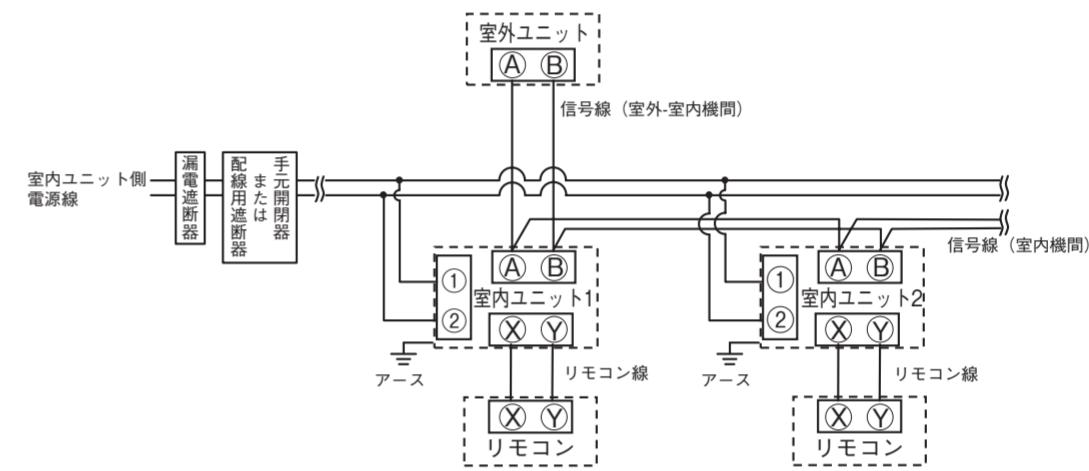
①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。

② 電源には必ず漏洩遮断器を取付けて下さい。漏洩遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品)を選定してください。

③ 漏洩遮断器が地絡保護専用の場合には、漏洩遮断器と直列に手元遮断器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

④ 手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。

●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。



③リモコンの取付け(別売部品)

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所

○発熱器具に近い所

○湿気の多い所、水が飛散する所

○取付面が発熱・結露する所

○油の飛沫や蒸気が直接触れる所

○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm² × 2心の電線またはケーブルを使用してください。(現地手配)

③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で接続により、サイズを変更してください。100 ~ 200m以内 ···· · 0.5mm² × 2心300m以内 ···· · 0.75mm² × 2心

④リモコンによる機能設定

機能設定

●リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更は不要です。

但し、グリル昇降設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

機能設定のながれは、右記の通りです。
設定方法の詳細は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

グリル自動昇降バルセナル使用時のご注意

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっています。
グリル自動昇降バルセナルを使用する場合は、必ずグリル昇降有効の設定をしてください。

据付地域の電源周波数に合わせ、50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。

【グリル昇降有効設定のしかた(簡易設定)】

- エアコン停止状態で、[セット]ボタンと [グリル昇降]ボタンを同時に長押ししてください。
- 表示が「昇降無効」⇒「有効 50Hz」⇒「有効 60Hz」となります。

- △または ▽ボタンにより設定を選択してください。
表示:「昇降無効」⇒「有効 50Hz」⇒「有効 60Hz」

- [セット]ボタンを押す
表示が「設定完了」となります。その後リモコンは停止状態に戻ります。

【機能設定のながれ】

開始：エアコン停止状態で[セット]+運転切換ボタン同時3秒押し

確定：[セット]ボタンを押す

戻る：[リセット]ボタンを押す

選択：△または ▽ボタンを押す

終了：[運転]/[停止]ボタンを押す

(設定の途中でも終了しますが、設定が完了していないものは無効になります。)

「○」：初期設定

「※」：自動判別

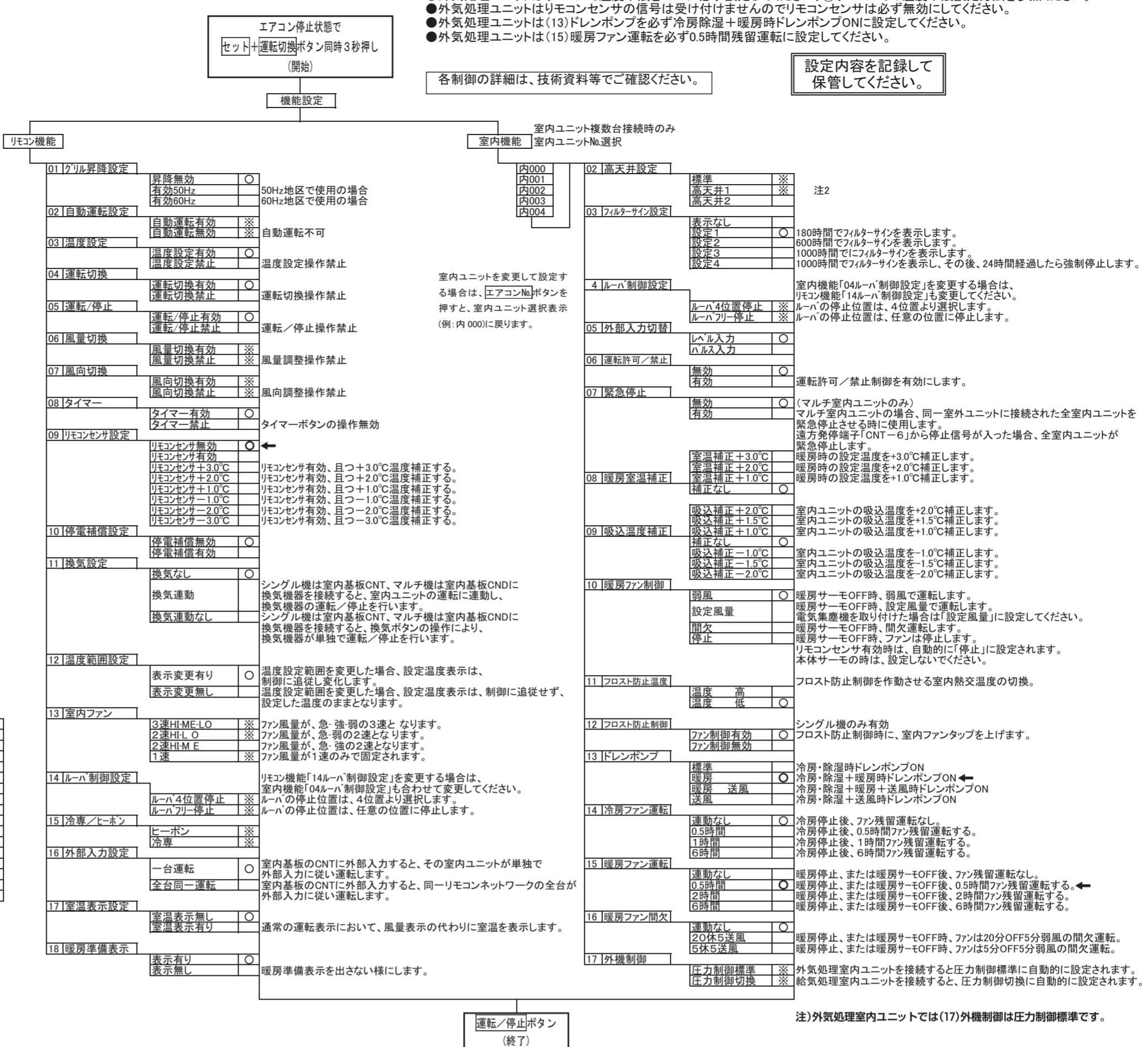
設定方法の詳細は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

注1：「○」印の初期設定は、接続される室内ユニット及び室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

機能番号	項目	初期設定	機能
リモコン機能02	自動運転設定	「自動」モード選択可能な機種	「自動」モードの無い機種
リモコン機能06	風量切換	風量切換有効	室内ファンタップが2速又は3速の機種
リモコン機能07	風向切換	風向切換有効	オーストリングルーバ搭載機種
リモコン機能13	室内ファン	3速Hi-Me-Lo	室内機ファンタップ3速の機種
リモコン機能14	ルーバ制御設定	1速	室内機ファンタップ2速の機種
室内機能04	冷専/ヒーボン	2速Hi-Me-Lo	室内機ファンタップが1速のみの機種
リモコン機能15	冷専/ヒーボン	2速Hi-Me	室内機ファンタップ以外のオーストリングルーバ搭載機種
室内機能17	外機制御	2速Hi-Me	冷専機

注2：高天井設定時のファンタップ	
ファンタップ	室内風量設定
高天井	標準

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。



注2：外気処理室内ユニットでは(17)外機制御は圧力制御標準です。

⑤試運転

冷房試運転方法

リモコンを次の手順で操作してください。

[操作手順]

1. 冷房試運転の開始
 - ①運転/停止ボタンを押して、運転します。
 - ②運転切換ボタンにより、「冷房」を選択します。
 - ③試運転ボタンを3秒以上押します。
 - 表示が、「冷房試運転▼」となります。
 - ④冷房試運転▼」の表示で、[セット]ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
 - 表示は、「冷房試運転▼」となります。

運転データの確認方法

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

[操作手順]

1. [店舗]ボタンを押します。

表示が「運転データ表示▼」となります。

2. 「運転データ表示▼」の表示で、[セット]ボタンを押します。

リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、

「データ確認中」表示となり、(データを読み込む間点減表示)

その後、運転データの01番が表示されます。

7番へお進みください。

4. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、

接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレスが表示されます。

[例]「室内機選択◆」(1秒間点灯) (点滅)

5. △または ▽ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。

6. [セット]により確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。) 「内001」(選択した室内アドレスを2秒間点灯)

↓

「データ確認中」(データを読み込む間点減表示)

その後、運転データの01番が表示されます。

7. △または ▽ボタンにより、現在の運転データを確認できます。

表示される項目は右記の通りです。

※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

8. 室内ユニットを変更する場合は、[エアコン No.]ボタンを押すことにより、室内ユニット選択表示に戻ります。

9. 運転/停止ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、[リセット]ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

◎運転データの確認は、リモコン2台で室内機を運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

ドレンポンプ試運転方法 (ドレンポンプはオプションです)

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。

リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

①試運転ボタンを3秒以上押します。表示が「冷房試運転▼」となります。

②▽ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。

③[セット]ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:[「セット」で停止]

2. ドレンポンプ運転の解除

①[セット]ボタン又は、[運転/停止]ボタンを押すと、ドレンポンプ(オプション)強制運転を解除します。エアコンは停止状態となります。

②リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

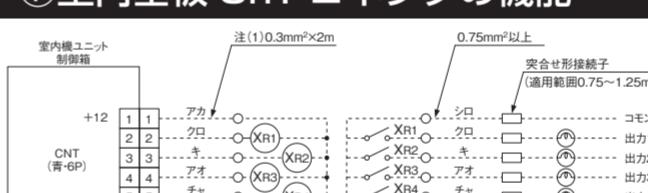
⑥制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。(■は工場出荷時の設定)

スイッチ名	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW3	室外アドレス(10位)
SW4	室外アドレス(1位)
SW5-1 (注1)	ON/OFF (旧SL通信仕様固定)
SW5-1 (注1) (OFF)	新SL (旧SL通信仕様自動判別)
SW5-1~2 (室内アドレス(100位))	
SW6-1~4 (機種容量)	
SW7-1 (ON)	運動チェックドレンポンプ運転
SW7-1 (OFF)	通常運転

注1: 通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
旧SL: ビル空調 2LX シリーズ、ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前
新SL: ビル空調 3LX シリーズ、ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降
SW5-1 が OFF (工場出荷設定) の場合は、通信仕様 (新SL/旧SL)
を自動判別します。
旧SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW5-1 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴、制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

⑦室内基板 CnT コネクタの機能



- X R1~4 は DC 1 2 V リレー (オムロン製 L Y 2 F相当品)
- X R5 は、DC 1 2, 2 4 V または 1 0 0 V リレー (オムロン製 MY 2 W相当品)

●CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ : モレックス製 5 2 6 4 - 0 6

端子 : モレックス製 5 2 6 3 T

●機能

- | | |
|------|---|
| 出力1 | エアコン運転出力(エアコンON時XH1=ON) |
| 出力2 | 暖房出力 |
| 出力3 | サーモON出力(サーモON時XH2=ON) |
| 出力4 | エアコン点検出力(エアコン点検時XH3=ON) |
| 入力5 | 出荷時 XH5 OFF=ON エアコンON
XH5 ON=OFF エアコンOFF |
| 現地切換 | XH5 OFF=ONのパルス信号によりON/OFF反転 |

⑧故障診断方法

異常発生時の運転データを記憶し、リモコンから異常運転データの確認ができます。

データ項目は「⑥試運転」の項目を表示します。

※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

[操作手順]

1. [点検]ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。

2. ▽ボタンを一度押して、「エラーデータ表示▲」に切り替えます。

3. [セット]ボタンを押すと、異常運転データ表示モードに入ります。

4. リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、以下表示となります。

①異常履歴がある場合: エラーコードと「データ確認中」を表示します。

[例]「E1」(エラーコード)

②異常履歴がない場合: データ表示されます。8 へお進みください。

5. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、以下の表示となります。

①異常履歴がある場合: 接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。

[例]「E1」(内000▲ (点滅))